

## ●川崎市むじなが池

神奈川県川崎市麻生区のむじなが池公園は、多摩丘陵の斜面や崖線による谷戸状の地形を呈し、浄水の流入による湿地、流れ、池を有する生態系豊かな公園です。しかし、周辺地域の面的な開発によって水量が減り、夏場の濁水時には藻類や異臭の発生がみられるようになりました。そこで平成9年度の自然共生型地域づくり事業（環境庁補助事業）で、生態系の保全と潜在的な植生の回復を図ることを前提とした施設整備が行われました。

（写真提供：川崎市環境局）



水質の改善と水生生物相の回復を目指して整備が行われているところ。水深の浅い部分を設けて水生植物の生育環境が造られた。



施工後 水質浄化機能とトンボなどの発生が期待される。

## ●ビルなどの建物や中庭などの緑化

都市内の限られた空間において、ビルの屋上や壁面、中庭といったスペースに自然を取り戻すことは、野鳥が繁殖し昆虫がすみよむ点的な生息空間づくりとして効果的です。こうした生きものの生息空間の整備は、都市の生態的再生につながるだけでなく、緑化による断熱効果の向上などによってエネルギー消費を減らし、またヒートアイランド現象をやわらげたり、空気をきれいにすることにもつながります。



屋上緑化（部分） 東京都板橋区立エコポリスセンターでは、3階のテラス部分（約34m<sup>2</sup>）に緑地スペースをつくり、植栽、小さな池の造成、野鳥の餌台や巣箱の設置を行った。



ドイツ、ベルリンの集合住宅の中庭につくられた水質浄化池。ヨシやイグサなどを植栽し、トンボや水生動物の生息空間としてだけでなく、生活雑排水の浄化池としても利用している。



屋根の緑化 ドイツでは学校や集合住宅の屋根も緑化している。緑化された屋根の上でヒバリが繁殖した事例もあるという。